

第6学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 相手や目的に合わせて書こう
教材名 「ガイドブックを作ろう」

2 単元について

? 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第5学年「言葉の研究レポート」で、調べたことを整理して書くことを学習してきた。また、「伝え方を工夫して発信しよう」では、必要なところは詳しく、それ以外は簡単に書き、目的に応じて伝える学習もしてきた。しかし、伝える相手や目的に合わせて文章を書くことの大切さは、十分にとらえてはいない。

そこで、本単元では、ガイドブック作りを通して、目的や意図に応じて、書く必要のある事柄を整理したり、簡単に書いたり詳しく書いたりすること、また分かりやすい構成を考え、地図や絵、文章などの配置や書き方を工夫したりする力を身に付けさせたい。

ここでの学習は、2学期単元「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」での「自分でテーマを決め、必要な情報を選び、整理して発信する」学習につながっていく。

? 指導の基本的な立場

教材「ガイドブックを作ろう」では、ガイドブック作りという実際のある場を設定して、書くことに関する目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりすること、また分かりやすい構成を考えたりすることができる。教材には、ガイドブックを作る過程が実例とともに示しており、取材の仕方、文章の構成の仕方などの工夫に気付くことができるようになっていく。

そこで、本単元では、これまでの学習経験を生かしながら、読み手が関心をもって読み、しかも実際に役に立つようなガイドブックを作ろうという意識を持続させながら学習を展開したい。そのためにはまず、1人1人に読み手を明確にするようにさせたい。

また、自分の持っているガイドブックを見る活動を通して、内容の選び方、割り付けや見出しなど、読み手を意識した工夫の仕方を見付けさせ、自分も作ってみたいという意欲を高めるとともに、ガイドブック作りの参考にさせたい。

次に、読み手に何を紹介するかを考えながら材料を集め、その中から書く必要のある事柄を整理させて、並べ方を考え目次を作らせる。ここでカードに代わっての計画立案を目次作りの形で体験させたい。

さらに、個人で割り付けをしたり文章を書いたりした後に、グループで見合う活動をさせ、より読み手に合った割り付けや文章になるようにしていきたい。

? 子どもの実態

調査日 平成18年6月19日(月) 回答人数31名【質問紙法】

本単元を展開するに当たっての児童の実態は、以下に示す通りである。

国語の学習について（複数回答）

好 き（ 21 名）	嫌 い（ 10 名）
<ul style="list-style-type: none"> ・本や文章を読むことが好き（10） ・字や文章を書くことが好き（7） ・漢字が好き（5） ・国語のノートが書きやすくて好き（1） ・物語を読めるから（3） ・新聞や作文にまとめることが好き（1） ・色々な単元が楽しい（1） ・漢字を書いたりして手の運動になる（1） ・調べたりすることが好き（1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字などを覚えるのが苦手（6） ・文章を書くのが苦手（2） ・文章を読むことがあまり好きではない（1） ・音読が苦手（1） ・読み取りが苦手（1） ・本を読むのが苦手（2）

書く活動について

ア 日記を書くこと（複数回答）

好 き（ 21 名）	嫌 い（ 10 名）
<ul style="list-style-type: none"> ・1日の出来事を振り返れる（7） ・色々な人に物事を知らせることが好き（3） ・自分の気持ちを表せる（3） ・1日にあったことを書いて残せる（3） ・文を短くまとめることが好き（2） ・まとめるのが面白い（2） ・文章を書くことがすき（2） ・今後の役に立つと思う（1） ・短くて色々書けるから（1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日を振り返って文章にするのが嫌い（2） ・あまり得意でない（2） ・話題が思いつかない（1） ・たくさん書かないといけない（1） ・考えるのが難しい（1） ・文の構成が難しい（1） ・毎日だからあきてくる（1） ・その日嫌なことがあったら、振り返らないと行けないから（1） ・記録をすることが好きでない（1）

イ 作文を書くこと（複数回答）

好 き（ 17 名）	嫌 い（ 14 名）
<ul style="list-style-type: none"> ・思い出などをくわしく書くことができる（6） ・色々なことを思い出して書くのが好き（3） ・自分の思いが自由に書ける（3） ・文章を書くことがすき（2） ・自分が好きなことを人に伝えられるから（1） ・まとめるのが好き（1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・長い文章を書くのが苦手（6） ・うまく書けない（3） ・初めに何を書くかが決まらない。（1） ・次に何を書くのがか思いつかない（1） ・文の構成が難しい（1） ・どのように書けばよいか分からない（1） ・話がとんだり、おかしい文章になるから（1） ・自分の思い出を他の人に伝えたくない（1）

ウ 新聞を作ること（複数回答）

好 き（ 27 名）	嫌 い（ 4 名）
<ul style="list-style-type: none"> ・区切って色々なことをまとめるのが好き（4） ・写真やイラストなども入れられるから（3） ・情報を整理することが楽しい（3） ・カラフルに仕上げた綺麗だと思う（2） ・文章をまとめることが好き（2） ・新聞記者になった感じがして楽しい（2） ・総まとめができ、学んだことを書くのは面白い（2） ・調べたことを人に教えることができる（2） ・社会で新聞を作って好きになったから（1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような内容にするか決まらない（2） ・どのように書けばいいかが分からない（1） ・書くことが思いつかない（1） ・自分で考えていないことでも書ける（1） ・新聞を見ることが楽しみ（1） ・調べたり、復習しながらまとめることができる（1） ・自分の思ったことをまとまる（1）

ガイドブックについて

ア ガイドブックを利用した経験がありますか。

あ る (27 名)	な い (4 名)
--------------	-------------

イ ガイドブックを作ってみたいですか。(複数回答)

作ってみたい (24 名)	作りたいと思わない (7 名)
<ul style="list-style-type: none"> ・好きな場所や施設をみんなに知ってもらいたい(7) ・作るのが楽しそう(5) ・オリジナル作品を作るのが好き(3) ・いろんな人に伝えたい(3) ・ガイドブックにしてまとめたい(3) ・自分の町のことなどが紹介できる(1) ・場所の特徴を探して文に表すのはとても楽しそう(1) ・相手が見て良かったと思わせたい(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大変そうだから(2) ・難しそうだから(1) ・どこをどんな風に行けばよいのかが分からない。記事をバランスよく書けなさそう(1) ・色々考えないといけないから(1) ・1つ1つ調べることが嫌い(1) ・紹介したい場所があまりない(1)

ウ ガイドブックを作るとしたら、どんなことを誰に紹介したいですか。(複数回答)

どんなことを	誰に
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな施設のこと(14) ・明和小のこと(6) ・明和のこと(2) ・面白い場所(3) ・旅行で行ったところ(1) ・歴史ある場所(1) ・鹿児島県(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達(16) ・家族(8) ・その場所を知らない人(5) ・親戚(3) ・先生(2) ・色々な人(2) ・低学年の子ども(2) ・施設に来る人(1) ・地域の人(2)

エ ガイドブックを作るとき、どんなことに注意して書きますか。(複数回答)

<ul style="list-style-type: none"> ・見やすいように(10) ・綺麗な字で書く(8) ・分かりやすく(8) ・色鮮やかに(2) ・イラスト、図、写真を入れる(4) ・間違いに気をつける(6) ・事実を書く(2) ・行をまっすぐに書く(2) ・見出しは大きく(2) ・内容が一方に偏らないように(1) ・箇条書きにして書く(1) ・実際に役立つこと(1) ・簡潔にまとめる(1) ・思ったこと(1) ・読み手に綺麗と思われるように(1) ・詳しく書く(1) ・相手や目的に合わせて(1)
--

オ ガイドブックには、どんなことを書きますか。(複数回答)

<ul style="list-style-type: none"> ・見どころやおすすめ(8) ・館内の様子(4) ・施設の場所(3) 入場料(2) ・施設の特徴(2) ・展示物の紹介(2) ・館内の地図(2) ・開館時間(1) ・持って行った方がいい物(1) ・自分の気持ち(1) ・そこの謎みたいなこと(1) ・注意点(1) ・あまり知られていないこと(1) ・イベントの紹介(1) ・道順(1)

実態の考察

アンケートの から、国語の学習に対しては約70%の子どもが好きと回答しており、領域では、「読むこと」や「書くこと」が好きという子どもが多い。書くことに絞った質問に対しては、日記・作文・新聞の全てにおいて、好きという子どもの方が嫌いという子どもより多くなっている。

特に新聞を作ることは、95%以上の子どもが好きと回答しており、調べたことや学んだことを整理して綺麗にまとめることに楽しさや満足感を抱いているようである。

一方日記や作文を好きな子どもは、新聞に比べると少なく、50%から60%である。嫌いだと答えている子どもたちは、「過去を振り返ることや長い文章を書くことが苦手」という答えが多い。思うように書けなかったり、何を書けばいいか悩んだりする経験があるようだ。書く材料を集めたり整理したりすることや、文章の構成が上手くできていないのではないと思われるので、指導が必要だと考える。

アンケートの から、本学級の子どもたちは、ほとんどがガイドブックを利用した経験をもって

いる。また、ガイドブックを作って人に見てもらいたいという意欲は高い。しかし、ガイドブック作りに対する興味・関心が低い子どももいる。それは、ガイドブックの良さや便利さを感じた経験が少ないのではないかとと思われる。

紹介したい内容や相手については、自分なりの考えをもっているのだから、子どもの興味・関心を大切にしながら、どんなガイドブックを作るかを考えさせていく。

また多くの子どもが、ガイドブックは、綺麗に見やすく分かりやすく書く必要があり、そのようなガイドブックを作りたいという思いをもっているようである。

ガイドブックに書くことについては、見どころや館内の様子、場所など多くのことに気付いているが、内容が足りない子どもや必要以上のものを書く子どももいると思われるので、確認していく必要がある。

? 指導上の留意点

以上のことを踏まえて、単元の展開に当たっては、次のようなことに留意したい。

意欲をもって学習に取り組ませるために、今までに行った中から自分の好きな施設や場所を選ぶようにさせる。

ガイドブックの良さや作り方の工夫に気付かせるために、色々なガイドブックを持ち寄り、全体の構成や内容の選び方、記述の仕方について気付いたことを話し合わせる。

読み手に分かりやすく役に立つガイドブックにするために、作る目的や知らせたい相手を常に確認させ、紹介する内容を考えて項目に整理したり、考えた項目に合わせて材料を集めるようにさせる。

ガイドブック作りを見通しをもって効率よく進められるように、集めた材料の中から目的や相手に合わせて必要な内容を選ばせ、ノートにメモして活用させていく。その際、どこを詳しく述べ、どこを簡単に述べるかも考えてメモをさせる。

文章を書くことへの抵抗を少しでも取り除くために、各ページの下書きをする際に、段落分けや繋ぎ言葉の指導をしていく。

読み手に分かりやすい文章にするために、内容や構成、表記や表現などの観点を決めて、下書きを友達と見合ってアドバイスをし、修正させる。

相手や目的に合わせて書くことができたかを確認するために、出来上がったガイドブックを読み合い、感想を交流させて学習のまとめをする。

3 目 標

必要な情報を集めて選んだり、伝えたいことが効果的に表現できているかを考えたりして、よりよいガイドブックを作ろうとする。 (国語への関心・意欲・態度)

想定した利用者に役に立つ情報を考えて書く。 (書くこと ア)

読み手にとって必要なものや自分が知らせたいことを考えて、情報を選ぶ。 (書くこと イ)

よりよい文章にするために、効果を考えて見直したり書き直したりする。 (書くこと オ)

4 指導計画 (全12時間)

過程	主 な 学 習 活 動	時	指 導 上 の 留 意 点
つかむ・見通す	1 全文を通読し、学習のめあてを決め、ガイドブックを作る活動の計画を立てる。 読み手に分かりやすく、役に立つガイドブックを作ろう。	1	作る目的や知らせたい相手を考え、学習への見通しを持たせ、意欲を高めるようにする。
	2 色々なガイドブックを見て、気付いたことを話し合い、ガイドブックの書き方について知る。		持ちよったガイドブックを見て、全体構成や内容の工夫について調べる

調べる	3 紹介する内容を考え、項目にまとめる。 4 必要な材料を集める。 ・写真 ・行ったときのメモ ・行ってみて ・パンフレット ・インターネット	3	読み手にとって必要な情報を詳しく考え、項目に整理するようにする。 紹介する内容に合わせて集めさせる。実際に行ける場合は、行って詳しく取材し、メモをさせる。
深める	5 集めた材料の中から、相手や目的に合わせて、必要な材料を選び、整理する。 6 ガイドブック全体の構成を考え、目次を作る。 7・8 割り付けを考え、ガイドブックの各ページの下書きを作る。(上質紙) 9 下書きを見直し、修正する。(本時) 10 各ページを仕上げる。 11 表紙・後書きを付け、製本する。	7 本時 9 / 12	目的や書き手のねらいに合わせて、どこを詳しく述べるか、どこを簡単に述べるかを考えさせる。 内容の重複を点検しながら、項目の並べ方を検討させる。 全体を見通して、分量や構成、写真や図の使い方を考える読み手のことを考えて、図や写真、見出しを効果的に配置し、分かりやすいガイドブックになるようにさせる。 観点を確認し、見直しと修正が効率良く行えるようにする。 読み手に自分の考えを伝えることを意識しながら仕上げさせる。
まとめる	12 できあがったガイドブックを読み合い、感想を交流して、学習をまとめる。	1	評価の観点をもとにして、自分や友達のガイドブックについて評価し合う。

5 本 時 (9 / 1 2)

? 目 標

相手や目的に合わせて、自分や友達の書いた下書きを見直し、修正することができる。

? 本時の展開に当たって

相手や目的に合わせて下書きを見直すには、観点を明確にすることが大切である。そこで、つかむ・見通す段階で、どのような観点が必要かを子どもたちの考えも取り入れながら確認する。その後、見直す方法についてもとらえさせるために、教師が観点に沿った見直しの仕方を実際に見せるようにする。

? 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 点
つかむ・見通す	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">読む人のことを考えて下書きを見直し、修正しよう。</div> 2 学習の進め方を確かめる。 下書きを見直す観点を考える。 「よりよい文章に」を手がかりに、下書きを見直す観点を確認する。 見直す方法を確認する。 個、グループ、個、全体の順で学習することを確認する。	10	学習に主体的に取り組みさせるために、前時の学習について振り返らせ、本時の学習課題を設定させる。 学習に見通しをもたせるために、見直す観点を明確にし、教師が観点に沿った実際の修正の仕方を見せるようにする。(観点表・見直しの仕方の例) 本時の学習のめあてを知り、学習の見通しを持つことができたか。

